

ボルトレス・ライト

標準施工要領書

目 次

安全に関するご注意（取扱注意事項）	2
設計・施工上の重要品質基準	2
第 1 章 一般事項	
1－1 適用範囲	4
1－2 部材の名称	4
1－3 部材一覧	5
第 2 章 標準施工要領（天井下地材）	
2－1 墨出し	8
2－2 ランナーの取付け	8
2－3 SQ-BAR の設置	9
2－4 短手方向壁際の施工	10
2－5 SQ-BAR 端部接続金具の取付け	11
2－6 点検口パネル用下地材の取付け	12
2－7 小型設備設置部の補強 SQ-BAR および補強板の取付け	13
第 3 章 標準施工要領（仕上げ材）	
3－1 標準パネルの取付け	14
3－2 点検口パネルの取付け	19
3－3 見切り材の取付け	22
3－4 点検・検査	22
第 4 章 特殊部の納まり	
4－1 曲がり角部の納まり例	23
付録 施工チェックリスト	24



安全に関するご注意(取扱注意事項)

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

1. 搬入時、資材の落下やずり落ちによるケガを防ぎ、腰を痛めないようにしてください。(現場での小運搬は無理のないようにご注意ください。)
2. 鋼材の切り口は鋭利であり、また、切断時にはバリも生じ易いので、手を傷つけないようにしてください。(軍手等の保護手袋を着用してください。)
3. 素手による取扱い、または素肌の露出部はケガをする恐れがありますのでご注意ください。(素肌をなるべく避けるような服装にしてください。)
4. 梱包用スチールバンドおよび針金等の切断時のはねあがり等によるケガが生じますのでご注意ください。(梱包をとく場合は状況判断して作業をしてください。)
5. 搬入時や保管時について次のような事項に注意してください。

＜天井下地材＞

- ① 運搬に際しては衝撃を与えたり、荷姿を崩したりしないように丁寧に取扱いってください。
- ② 荷受け時には、注文書と現品を照合して所定の長さ、種類、数量が搬入されているか確認を行ってください。
- ③ 変形、損傷の有無の確認を行い、検収してください。
- ④ 原則として、屋内の湿気の少ない場所に保管してください。(やむを得ず屋外に置く場合には防水シートをかけてください。)
- ⑤ 製品は地面に直接置かず、平らなところにかい木をして水平に置き、積み重ねる場合は間木を施して荷崩れを起こさないように置いてください。
- ⑥ クレーン荷揚げ等の運搬に関しては、布製平型吊りバンドを使用するなど、製品の角や表面の損傷に注意してください。また、製品の上に重いものを乗せないでください。

＜仕上げ材＞

- ① 仕上げ材は1梱包2段入りです。積載段数は30段(30梱包)までとってください。
 - ② 直射日光、高温多湿を避け、雨や水に濡れない場所に水平に保管してください。
 - ③ 火気に十分注意してください。
 - ④ 梱包に衝撃を加えず、斜め、上下逆さに持ち上げず水平に持ち運んでください。
 - ⑤ 梱包の上下を確認し平らな面の上に平置きしてください。(シワ、反り防止)
 - ⑥ 商品の上に物を載せたり、壁への立て掛けはしないようにしてください。
 - ⑦ 衝撃を与えたり、荷姿を崩したりしないよう丁寧に取扱いください。
 - ⑧ 油気、汚れなど付着しないようきれいな軍手で取扱い、汚れがついた場合はすみやかに乾いた布を使い除去してください。
6. 天井に重量物を固定すると落下、脱落により、思わぬケガをしたり天井面を破損したりすることがありますので、原則、設置しないでください。
 7. 壁に資材を立てかけたりすると倒壊により思わぬケガをすることがあるので、壁には資材を立てかけないでください。
 8. 天井に乗ったり、ぶら下がったりすると落下、脱落によりケガをすることがありますので、危険な行為はしないでください。
 9. 天井から物を吊るしたり、物を載せたりすると落下や脱落によりケガをしたり、天井周辺を破損することがありますので、原則、設置しないでください。
 10. その他、安全使用上問題のある行為は行わないでください。



設計・施工上の重要品質基準

設計上の留意事項

1. 鋼製下地材の構造は、照明器具や各種設備機器類の荷重を考慮しておりませんので、これらの機器類は、個々に所定の強度・剛性を有する構造および取付け方法としてください。
2. 本工法は、耐風圧性や高耐食性を要求される場所では使用できません。
3. 天井が取り付け間仕切壁が 5m を超える場合は、別途ご相談ください。

施工上の留意事項

1. 鋼製下地材のく(軀)体への取付けやインサートとの接合は確実に堅牢に行ってください。
2. 配管、空調ダクト、空調機器、照明器具等と鋼製下地材とはそれぞれ独立して取付けてください。

第1章 一般事項

1-1 適用範囲

この施工要領書は、桐井製作所製 SQ-BAR とパナソニックハウジングソリューションズ株式会社製 エアライト(設備ラインタイプ)を組み合わせた「ボルトレス・ライト」の標準施工方法について規定する。

1-2 部材の名称

各部材および附属金物の名称は、次による。(図 1-2-1 参照)

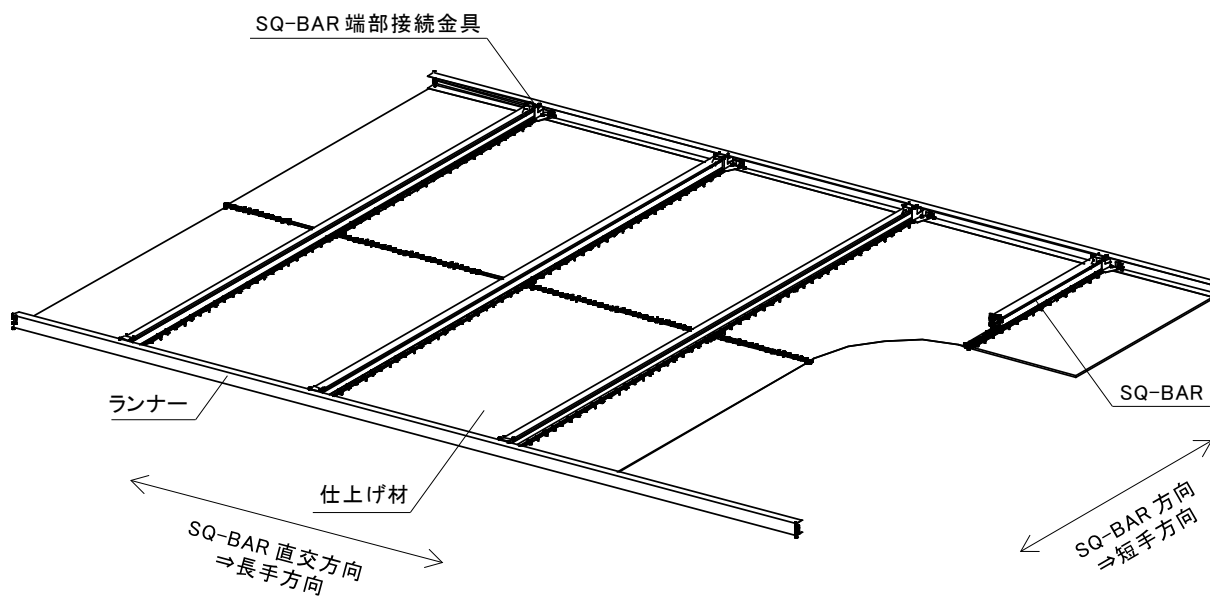
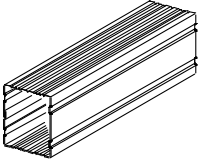
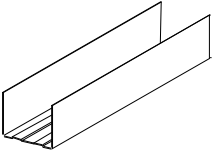
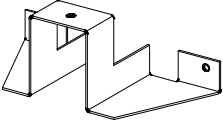
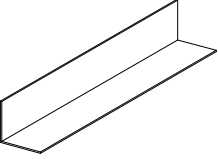
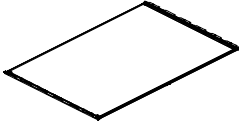
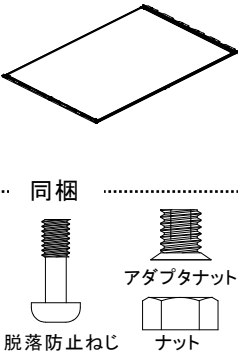
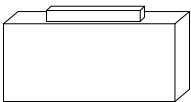
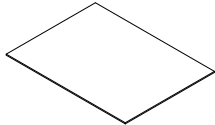
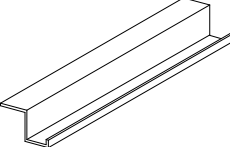


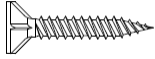
図 1-2-1 ボルトレス・ライト(例図)

1-3 部材一覧

ボルトレス・ライトを構成する各部の部材一覧を以下に示す。

	部 材 名 称	SQ-BAR
	品 名	SQ-BAR 4050
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z08
	備 考	
	部 材 名 称	ランナー
	品 名	SQ-ランナー50
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z08
	備 考	
	部 材 名 称	SQ-BAR 端部接続金具
	品 名	SQ ウイング 4050 用
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12
	備 考	
	部 材 名 称	点検口パネル用下地材
	品 名	折曲長物[L-30×30×0.6]
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12
	備 考	エアリライト(点検口パネル)が取り付け箇所を使用
	部 材 名 称	仕上げ材
	品 名	エアリライト(標準パネル)
	規 格・材 質	ガラス繊維シート(WH)、化粧シート(WH 以外)、アルミシート、 発泡ウレタン樹脂
	表 面 処 理	-
	備 考	品番:VFP2P○B02□(金具ブラック色) VFP2P○W02■(金具ホワイト色) □色柄:WH/GS/BC/NL/EV/CY/TY ■色柄:WH/WE ○長 さ: L 22/18/16/14/12/10/08/06 (例)長さ 2200 のパネルの場合、“22” サイズ:t10.5×W924×L(仕上げ材:t4×W906×L) 長さL:2200/1800/1600/1400/1200/1000/800/600 不燃認定番号:NM-5073-1/NM-5477-1/NM-5446 ※受注生産品

	部 材 名 称	仕上げ材
	品 名	エアリライト(点検口パネル)
	規 格・材 質	化粧シート、アルミシート、発泡ウレタン樹脂
	表 面 処 理	-
	備 考	品番:VFP2T06B02□(金具ブラック色) VFP2T06W02■(金具ホワイト色) □色柄:WH/GS/BC/NL/EV/CY/TY ■色柄:WH/WE ※同梱:脱落防止ねじ、アダプタナット、ナット サイズ:t10.5×W924×L600(仕上げ材:t4×W906×L600) 不燃認定番号:NM-5073-1/NM-5477-1/NM-5446 ※受注生産品
	部 材 名 称	施工治具
	品 名	マグネット施工治具
	規 格・材 質	着磁体付 ABS
	表 面 処 理	-
	備 考	品番:VFP2J9N04 サイズ:t9×65×50 ※受注生産品
	部 材 名 称	補強板
	品 名	-
	規 格・材 質	ケイ酸カルシウム板
	表 面 処 理	-
	備 考	ダウンライト等の開口部補強に使用 サイズ:t6×300×600
	部 材 名 称	見切り材
	品 名	58091 アルミ MZ-10((株)創建製)
	規 格・材 質	-
	表 面 処 理	アルマイト処理
	備 考	L=3000mm 仕上げ材の下地固定バーと同色の塗装品とする場合、 日塗工番号 N-15 で手配(※受注生産品)
	部 材 名 称	セルフドリリングビス
	品 名	KIRII 耐震ビス(PAN:4.2×16mm 以上)
	規 格・材 質	JIS B 1124 認証品
	表 面 処 理	Fe/Zn3c1B 以上
	備 考	天井下地材同士の固定に使用 ※使用できるビスについては、別添付録資料を参照のこと。

	部 材 名 称	仕上げ材用ビス
	品 名	天井パネル専用固定ねじ
	規 格・材 質	SUS410 皿頭 薄板用 4×13
	表 面 処 理	黒塗装仕上げ
	備 考	品番:VFP2N14B1000 仕上げ材と野縁の固定に使用 ※受注生産品
 	部 材 名 称	タッピンビス(フレキ)
	品 名	-
	規 格・材 質	鋼製
	表 面 処 理	三価ユニクロ
	備 考	ビスの選定条件:ビス頭形状 フレキ 薄鋼板用のタッピングビス サイズ 3×20mm 補強板固定に使用

第2章 標準施工要領(天井下地材)

2-1 墨出し

建物の基準墨や地墨等より、仕上げ材の割付け位置やランナーの取付位置(CH+10mm)に墨出しを実施する。

2-2 ランナーの取付け

天井用のランナーを墨にあわせ壁に取付ける。ランナーの留めつけは、壁の仕様を確認し適切な方法で固定すること。

ランナーを固定する壁が軽量壁下地の場合は軽量下地用ビス(別途手配)を使用し、スタッドに確実にビスを打ち込む。コンクリートの場合はコンクリート用ビス(φ4mm、別途手配)を使用する。

また、ランナーを留め付ける際は以下の点に注意すること。

- 1) 固定のピッチは、ランナーの端から 50mm 以内、中間部は 606mm 以下とする。
- 2) SQ-BAR とランナー底部の隙間は 10mm 以下とする。(図 2-2-1 参照)

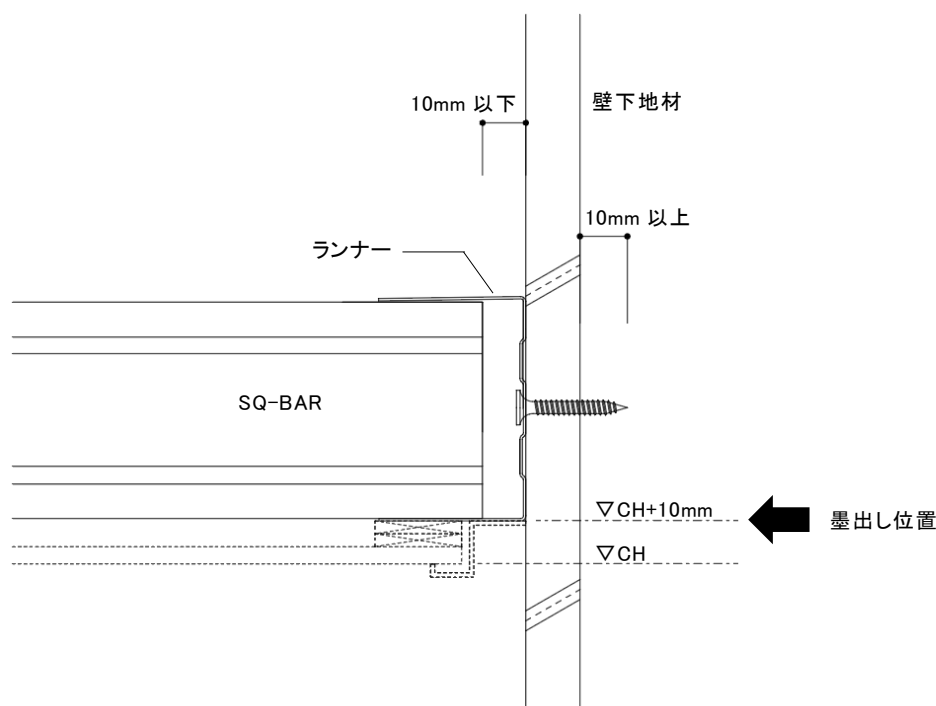


図 2-2-1 ランナー固定部詳細

2-3 SQ-BAR の設置

SQ-BAR を 915mm 間隔±1mm で設置する。ランナー間のスパンは 3000mm 以下とする。(図 2-3-1 参照)

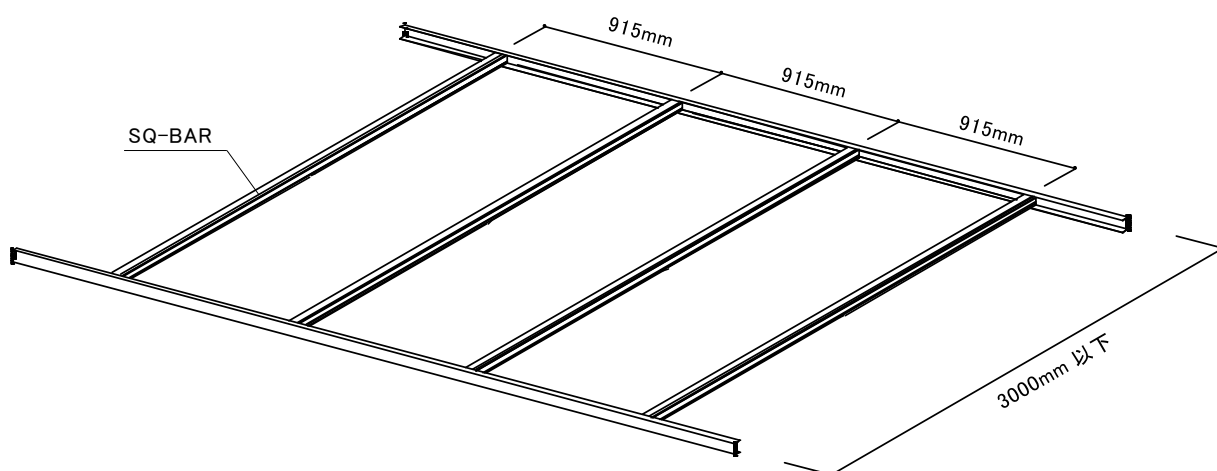


図 2-3-1 SQ-BAR のピッチ

SQ-BAR をランナーにはめ込む際は、SQ-BAR とランナーの幅を合わせ、SQ-BAR を斜めに傾けてランナーに差し込むようにする。(図 2-3-2 参照)

スタッドをランナーに差し込み、1/4 回転して取り付ける方法は極力避けること。

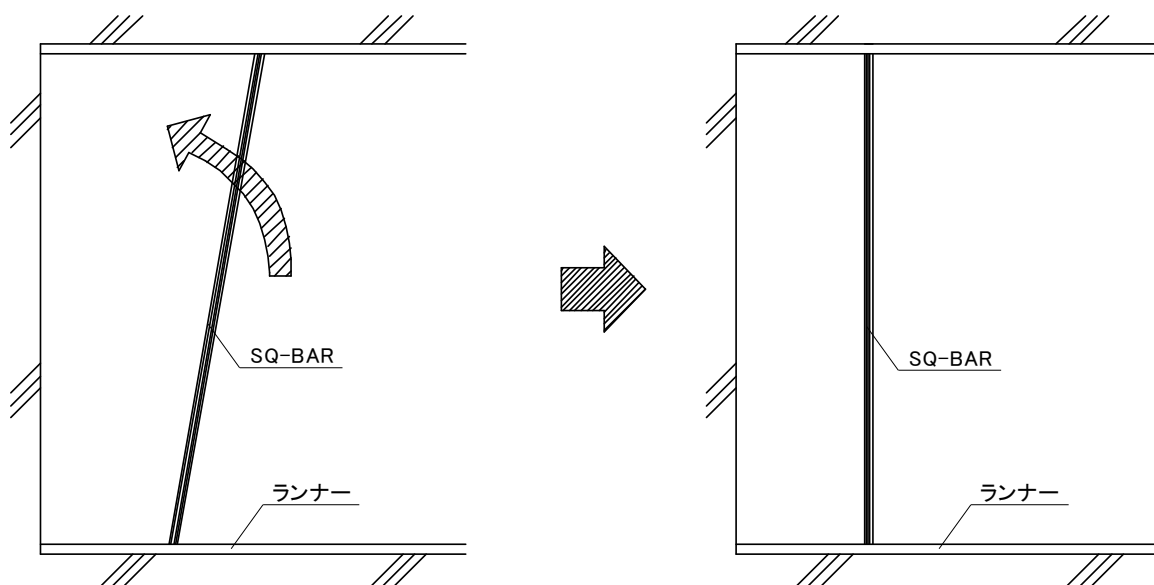


図 2-3-2 SQ-BAR の設置(見上図)

2-4 短手方向壁際の施工

短手方向壁際に配置される SQ-BAR については、端部とランナーの接合部(両端で計 2 箇所)を KIRII 耐震ビス 1 本/箇所 で固定する。(図 2-4-1 参照)

SQ-BAR は壁面との取り合い部でたわみが発生しやすいため、天井端部の SQ-BAR を壁に固定することを推奨とする。(図 2-4-3 参照)

・振れ止め用ランナーで固定する方法

1) 壁面がコンクリートの場合

ランナーを 300mm 程度の長さにカットして壁面にビス固定し、SQ-BAR を差し込む。(図 2-4-2 参照)

2) 壁面が乾式間仕切壁の場合

ランナーの長さを壁下地材の設置間隔以上～500mm 以下にカットして壁下地材に軽量鉄骨下地用ビスで固定し、SQ-BAR を差し込む。

・SQ-BAR を壁に直接固定する方法

SQ-BAR の片面に $\phi 10\text{mm}$ 程度の穴を開け@1200mm 以内に軽量鉄骨下地用ビスで固定する。(図 2-4-3 参照)

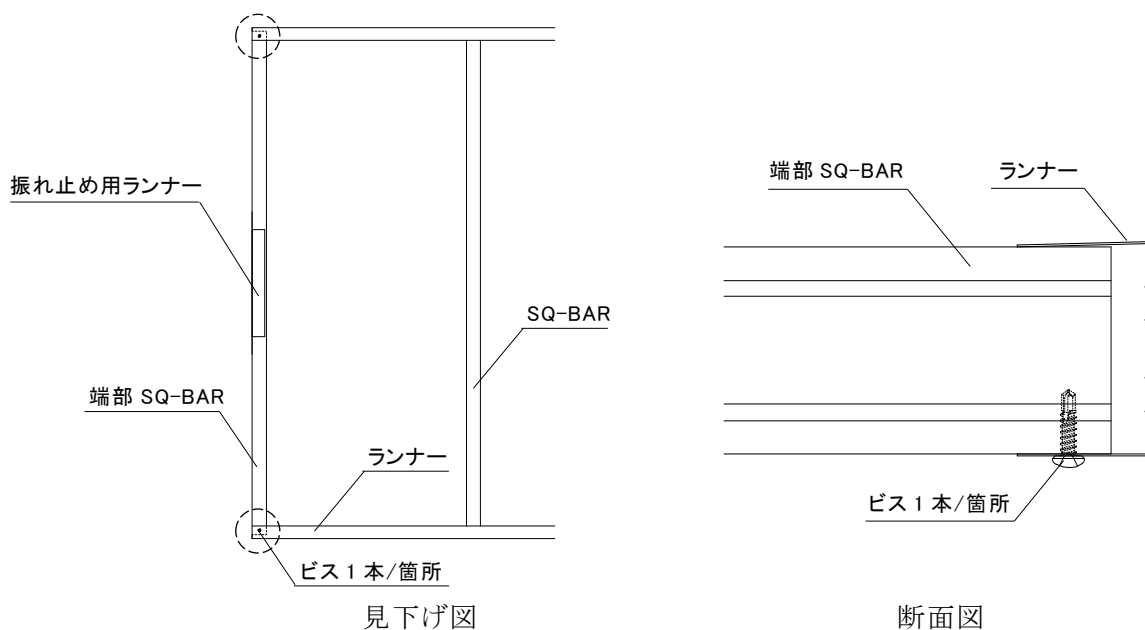


図 2-4-1 短手方向壁際の SQ-BAR 端部

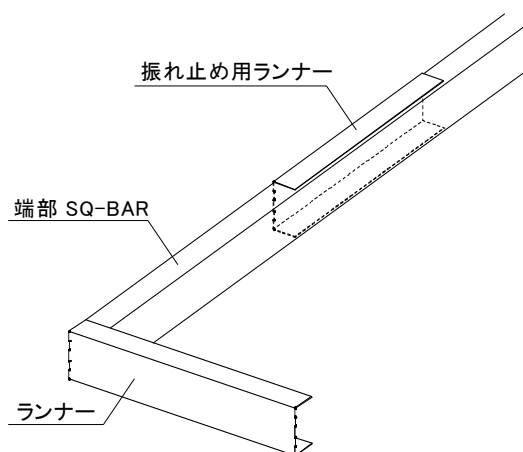


図 2-4-2 振れ止め用ランナーの設置

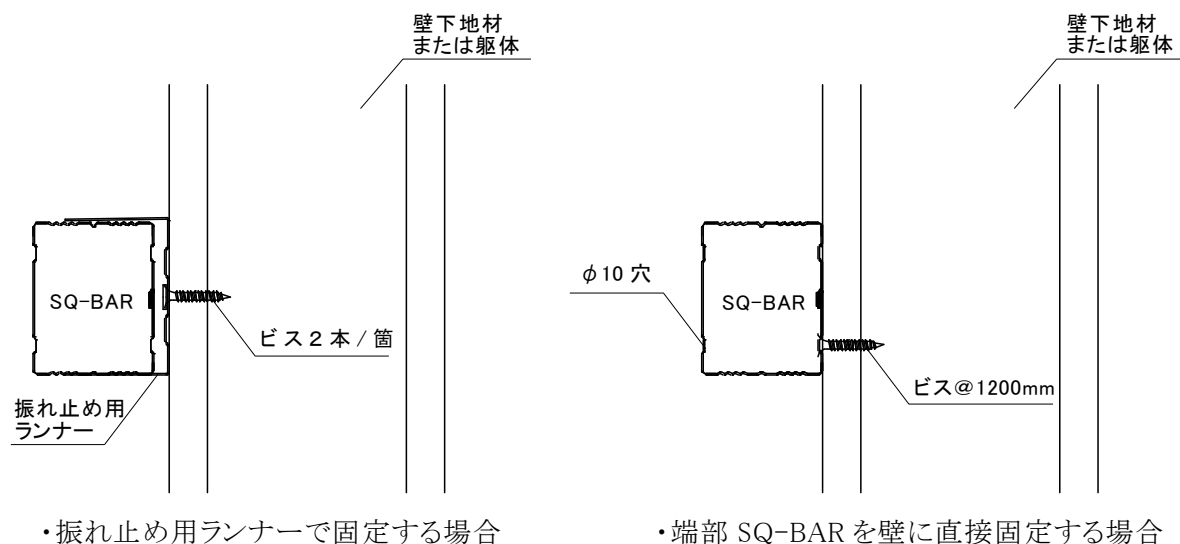


図 2-4-3 短手方向壁際の納まり詳細

2-5 SQ-BAR 端部接続金具の取付け

SQ-BAR とランナーの接合部には、SQ-BAR 端部接続金具を取り付ける。設置箇所は SQ-BAR 1 本あたり両端の計 2 箇所とし、壁が軽量壁下地の場合は KIRII 耐震ビス、コンクリートの場合はコンクリート用ビスを用いてランナーと SQ-BAR 端部接続金具を 2 本/箇所で固定する。(図 2-5-1 参照)

※SQ-BAR 端部接続金具上面の孔は製造上のものであり、SQ-BAR を拘束してしまうためビスは打たないこと。

※2-4(p10)で施工した短手方向壁際の端部 SQ-BAR は直接ランナーにビス固定しているため、SQ-BAR 端部接続金具の取付けは不要とする。

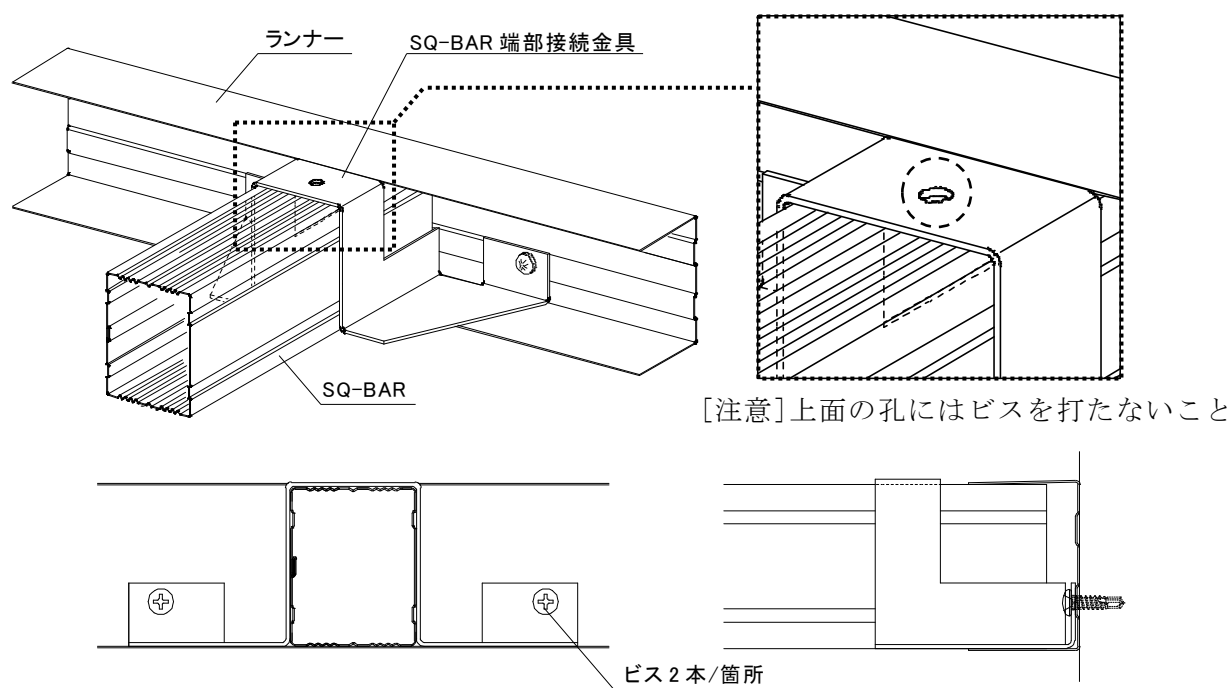


図 2-5-1 SQ-BAR 端部接続金具の取付け

2-6 点検口パネル用下地材の取付け

点検口パネルの開閉側を固定する SQ-BAR については、点検口パネル用下地材を取付ける。

1) 点検口パネル用下地材を SQ-BAR と同じ長さとなるようにカットする。

2) SQ-BAR の側面に点検口パネル用下地材を KIRII 耐震ビスで固定する。

その際、SQ-BAR と点検口パネル用下地材の下端が同面となるようにする。(図 2-6-1 参照)

ビス固定間隔は点検口パネル用下地材の端から 100mm 程度、中間部は 606mm 以下とする。

3) SQ-BAR+点検口パネル用下地材をランナーにはめ込む。点検口パネル用下地材の中心が隣の SQ-BAR と 915mm±1mm 間隔となるように配置する。(図 2-6-2 参照)

4) SQ-BAR 端部接続金具は、SQ-BAR+点検口パネル用下地材の上から被せるようにして取付ける。(図 2-6-1 参照)

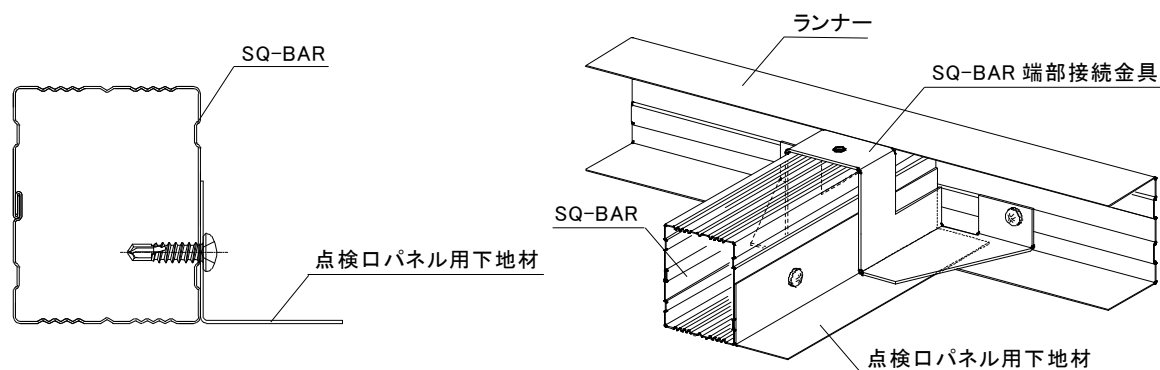


図 2-6-1 点検口パネル用下地材の取付け

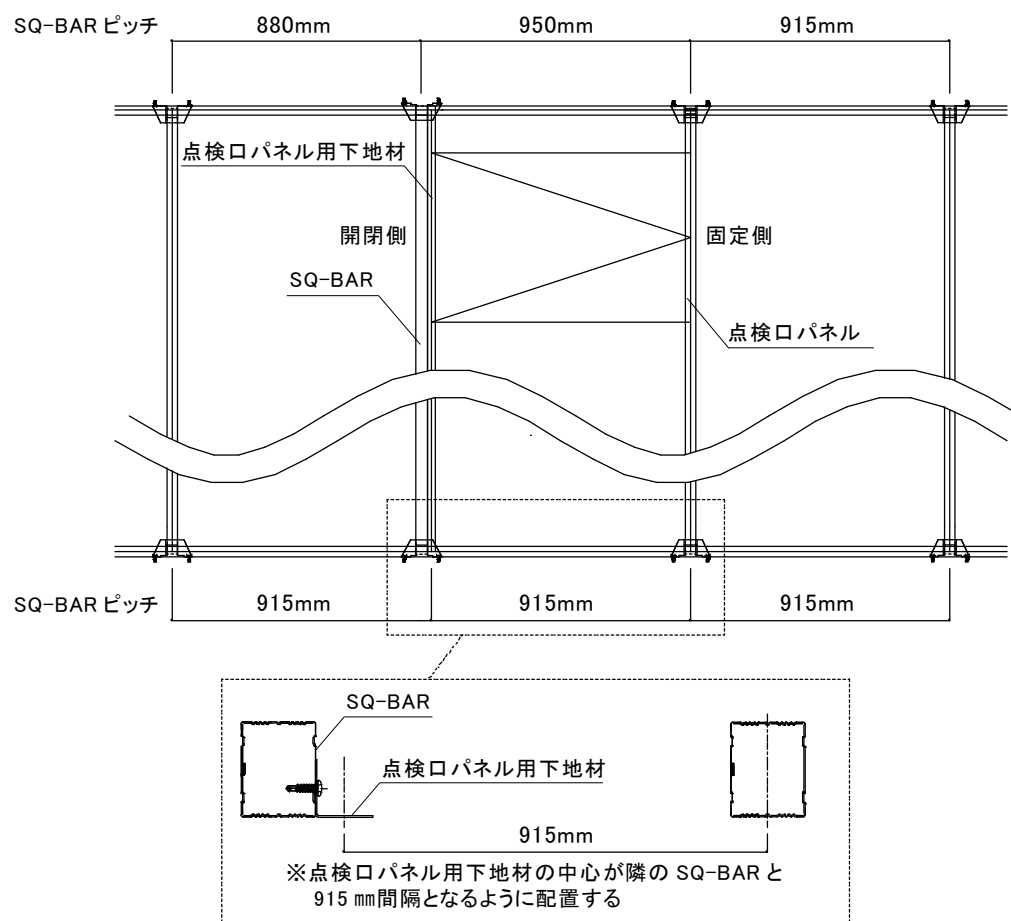


図 2-6-2 点検口パネル取付部の下地材間隔

2-7 小型設備設置部の補強用 SQ-BAR および補強板の取付け

天井面にダウンライトや火災報知器などの小型設備を設置する箇所については、補強用 SQ-BAR を取付け、補強板をタッピンビス(フレキ)で留め付ける。(図 2-7-1 参照)

その際設置する小型設備の重量は補強用 SQ-BAR2 本あたり 3kg 程度以下とする。

なお、補強用 SQ-BAR には SQ-BAR 端部接続金具の取付けは不要とする。

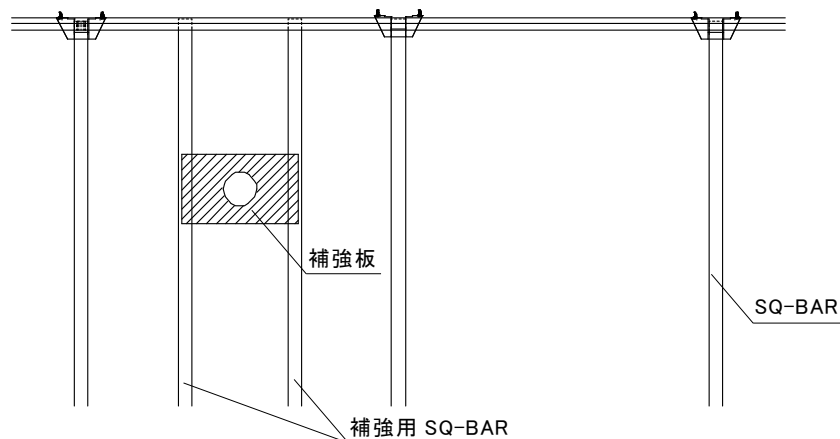


図 2-7-1 小型設備用の補強用 SQ-BAR および補強板の取付け

第3章 標準施工要領(仕上げ材)

3-1 標準パネルの取付け

I. 事前確認

仕上げ材「エアライト(設備ラインタイプ)」は、仕上げ材の端に取り付いている下地固定バーに A 側と B 側があるため、施工の際は仕上げ材の向きに注意する。(図 3-1-1 参照)

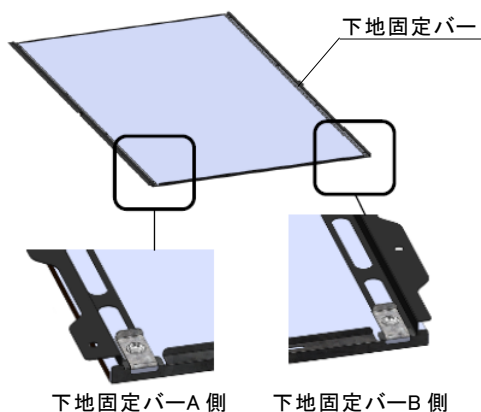


図 3-1-1 エアライト(設備ラインタイプ) 標準パネル 裏面

II. 1 列目のパネルの取付け

仕上げ材の施工は 2 名で行うことを推奨するが、1 名で仕上げ材を取り付ける場合は以下の手順で進める。

- 1) 墨出しした SQ-BAR を基準に 1 列目の仕上げ材の下地固定バーをラチェットクランプで仮に保持する。(図 3-1-2 参照)
- 2) SQ-BAR に対して仕上げ材の下地固定バーの下孔位置から仕上げ材用ビスで固定する。(図 3-1-3 参照)

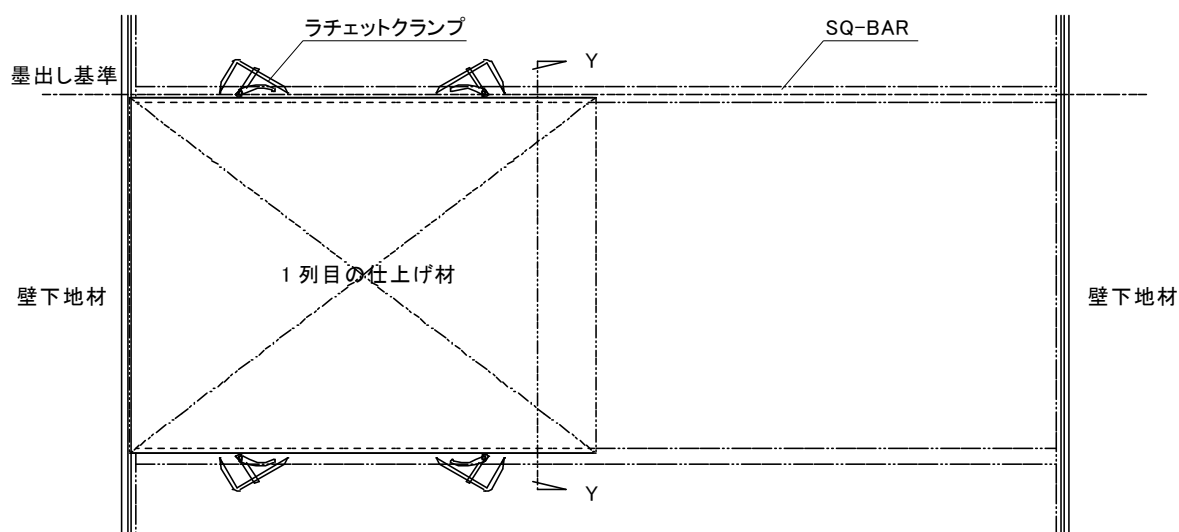


図 3-1-2 1 列目の仕上げ材の取付け(平面図)

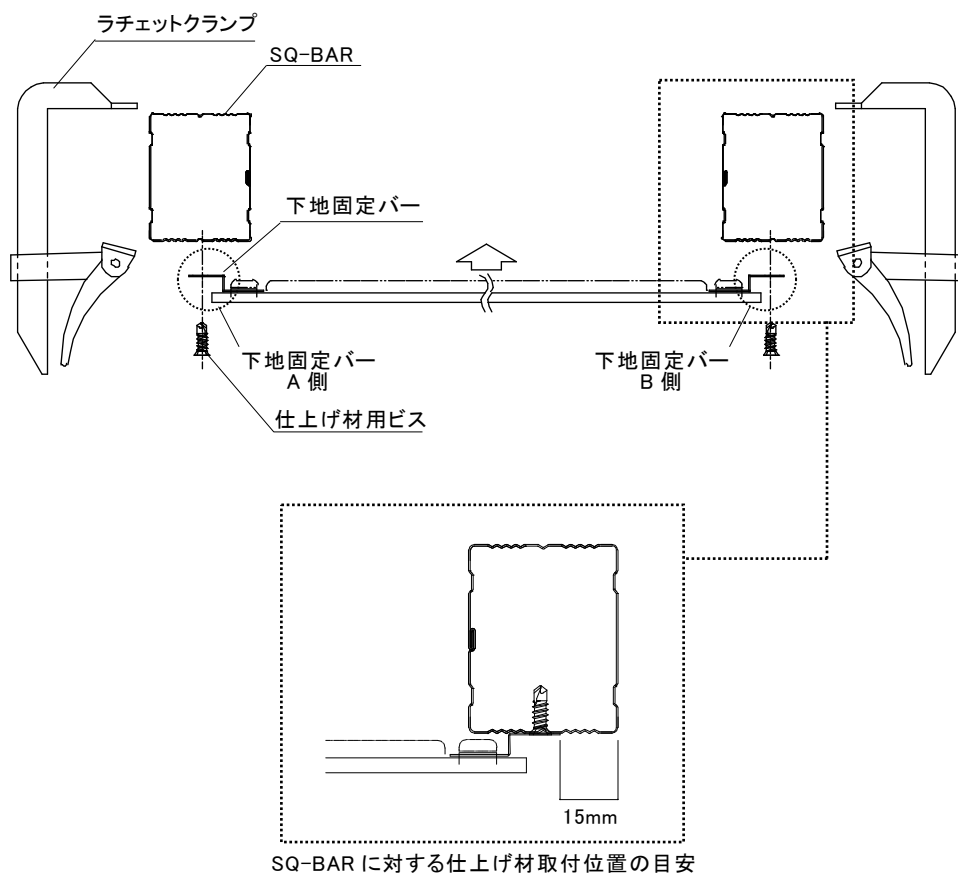


図 3-1-3 1 列目の仕上げ材の取付け (Y-Y 断面図)

Ⅲ. 2 列目以降のパネルの取付け

- 1) 1 列目の下地固定バーB 側に対して 2 列目の仕上げ材の下地固定バーA 側を重ね、B 側の下地固定バーをラチェットクランプで仮に保持する。仕上げ材同士の目地隙間は施工治具で 9mm を確保する。(図 3-1-4、図 3-1-5 参照)
- 2) SQ-BAR に対して仕上げ材の下地固定バーA 側の下孔に仕上げ材用ビスで固定する。
- 3) SQ-BAR に対して仕上げ材の下地固定バーB 側の下孔に仕上げ材用ビスで固定する。
- 4) 3 枚目以降も 1～3 を繰り返し同様に施工する。

※下地固定バーB 側に対して次に施工する仕上げ材の下地固定バーは、必ず A 側とすること。

A 側同士や B 側同士を重ねての施工は不可。(図 3-1-6 参照)

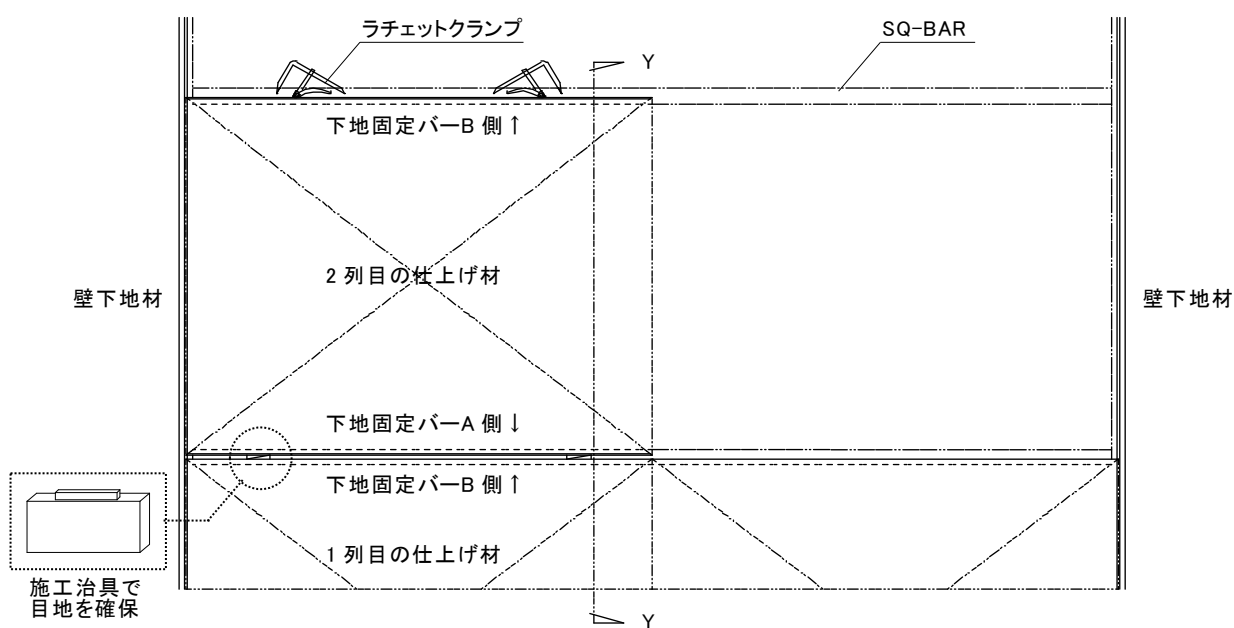


図 3-1-4 2 列目の仕上げ材の取付け(平面図)

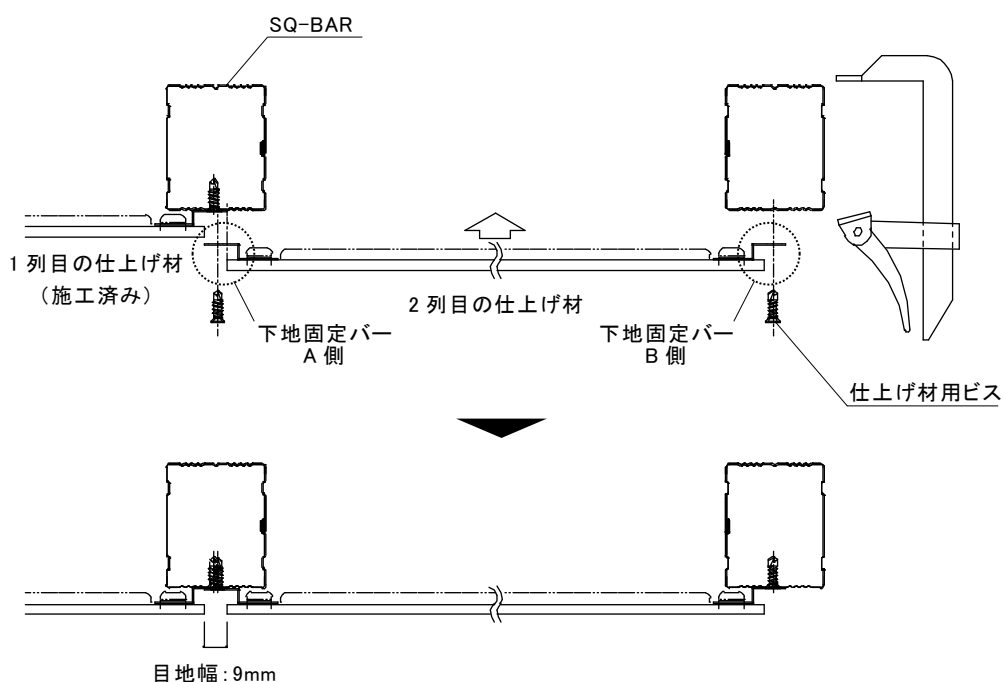


図 3-1-5 2 列目の仕上げ材の取付け(Y-Y 断面図)

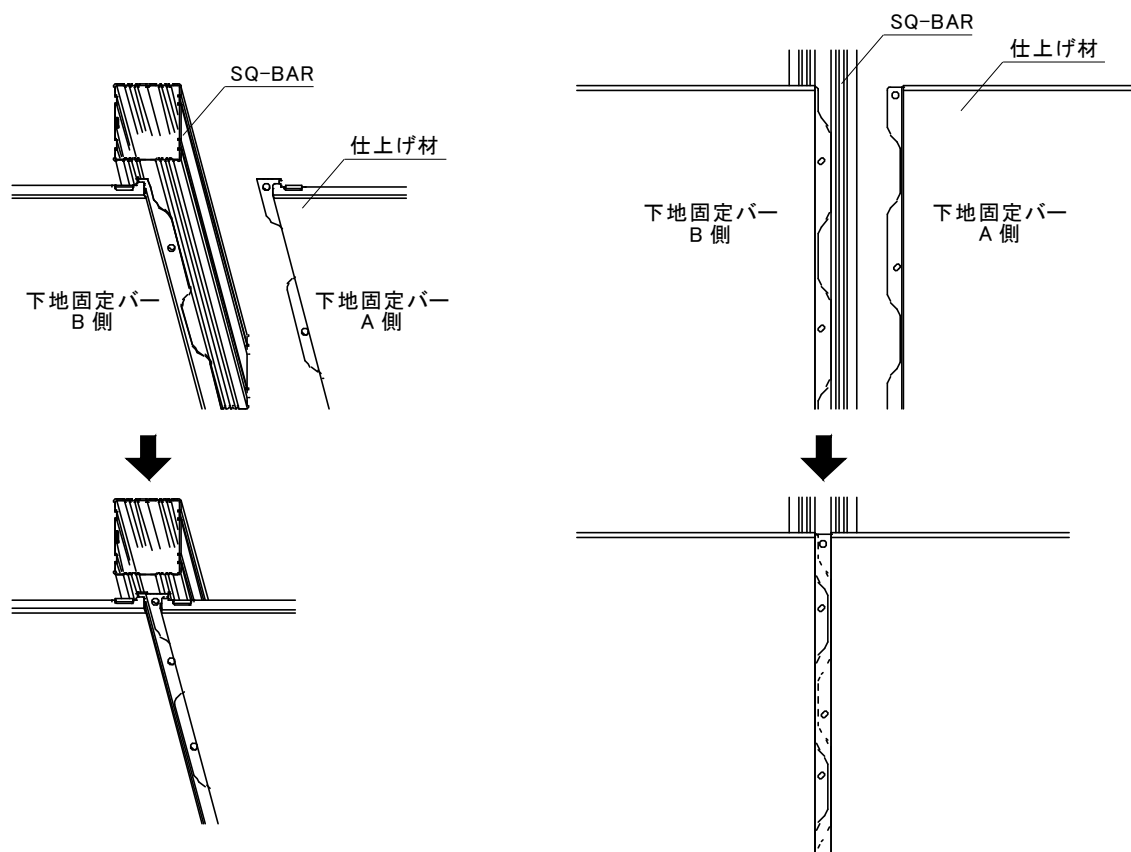


図 3-1-6 仕上げ材の下地固定バー納まり詳細

重要品質基準

目地芯々:ピッチ915mm±1mm以内
目地幅:9mm±2mm
パネル1辺での最大値と最小値の差が1mm以下であること
隣り合うパネル間段差:1mm以下であること

お願い

目地内にねじを打つ際は、必ずスリムビットを使用してください。
ビットがパネル端に当たると、目地部の外観不良になるおそれがあります。

※仕上げ材用ビスを打ち直す場合

仕上げ材用ビス固定後に、仕上げ材交換などの理由で別の箇所に打ち直したい場合は、下孔付近の下図斜線部に仕上げ材用ビスを固定する。(図 3-1-7 参照)

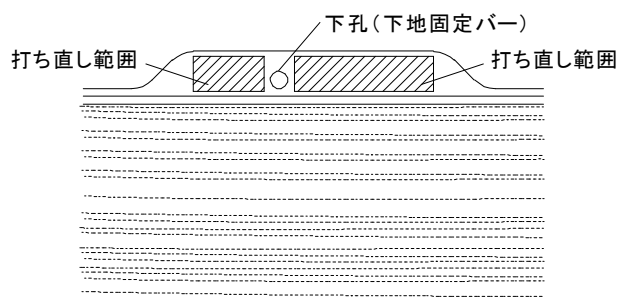


図 3-1-7 仕上げ材用ビスを打ち直す場合

お願い

ねじの場所を変えて打ち直す場合も、元の位置にもねじの取り付けをしてください。
ねじの取り付けが無いと穴が空いた状態となります。

Ⅳ. 壁際の仕上げ材の処理

壁際に設置する仕上げ材は、見切り材位置までの距離(※)に合わせて切断し、浮上り防止用に仕上げ材の端材を貼り付ける。(図 3-1-8 参照)

- 1) 見切り材位置までの距離を計測し、仕上げ材を切断する。
- 2) 仕上げ材裏面の切断側に、仕上げ材の端材(約 20mm 幅×長さ)を 2 枚重ねで両面テープ等を用いて貼り付ける。

※3-3(p22)に記載の、見切り材に対する仕上げ材載せ掛け寸法および設定クリアランス寸法を考慮して決定すること。

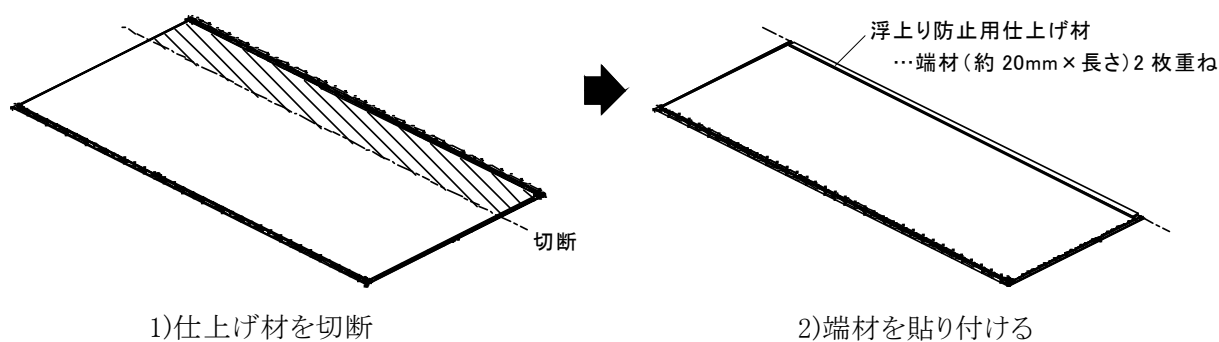


図 3-1-8 壁際に設置する仕上げ材の処理(廊下短手方向)

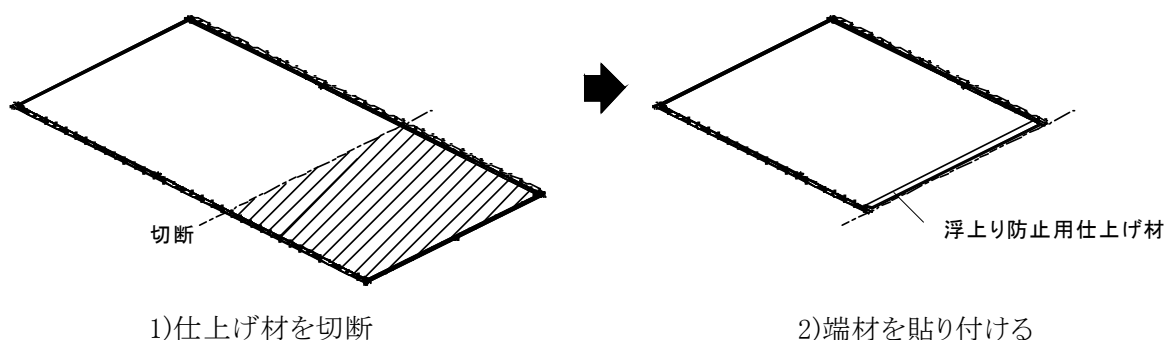


図 3-1-9 壁際に設置する仕上げ材の処理(廊下長手方向)

施工のポイント

天井パネルは、表面から仕上げ材部分をカッターナイフ、金具部分は金切バサミを用い切断する。壁に不陸がある場合や壁が曲線など直線ではない場合は、壁に取り付けた見切り材の形状に合わせて切断する。

お願い

パネルに汚れがつかないように、きれいな切創防止用軍手で作業する。
天井パネルを切断した場合はパネルが折れやすくなるため、移動や施工で取り扱いされる際に注意すること
パネルの表面を強くにぎらないでください。凹みが生じるおそれがあります。

点検口パネルの下地固定バーには開閉側と固定側があるため、施工時は仕上げ材の向きに注意する。(図 3-2-1 参照) 隣接する仕上げ材の下地固定バーが B 側の場合は開閉側を、A 側の場合は固定側を重ねる。(図 3-2-2 参照) 点検口パネルの開閉側が取り付け SQ-BAR は、2-6(p12)で施工した点検口パネル用下地材に仕上げ材を留め付ける。(図 3-2-3 参照)

- 1) 隣接する仕上げ材の下地固定バーB 側に対して、点検口パネルの開閉側を重ねる。固定側をラッチクランプで仮に保持する。隣接する仕上げ材との目地隙間は施工治具で 9mm を確保する。
- 2) 点検口パネルの固定側を仕上げ材用ビスで固定する。
- 3) 点検口パネルの開閉側中央に設けられている孔の位置を、2-6 (p12) で施工した点検口パネル用下地材にマーキングし、点検口パネル用下地材のみに $\phi 6.5\text{mm}$ の孔を一箇所あける。
- 4) $\phi 6.5\text{mm}$ の孔に下からアダプタナットをねじ込み、上からナットを回し入れ緊結する。
※六角レンチを用いて確実に締め込むこと。(図 3-2-3 参照)
- 5) 点検口パネルを閉じ、脱落防止ねじをアダプタナットにねじ込む。
※手回しドライバーを用いること。
- 6) 点検口パネルの隣の仕上げ材との段差がなくなるよう端部の凹凸をかみ合わせる。
※点検口パネル側を下から軽く押し上げる。

- 1) 隣接する仕上げ材の下地固定バーA 側に対して、点検口パネルの固定側を重ねる。開閉側をラチェットクランプで仮に保持する。隣接する仕上げ材との目地隙間は施工治具で 9mm を確保する。
- 2) 前述の通り、I.2～7 と同じ手順で施工する。

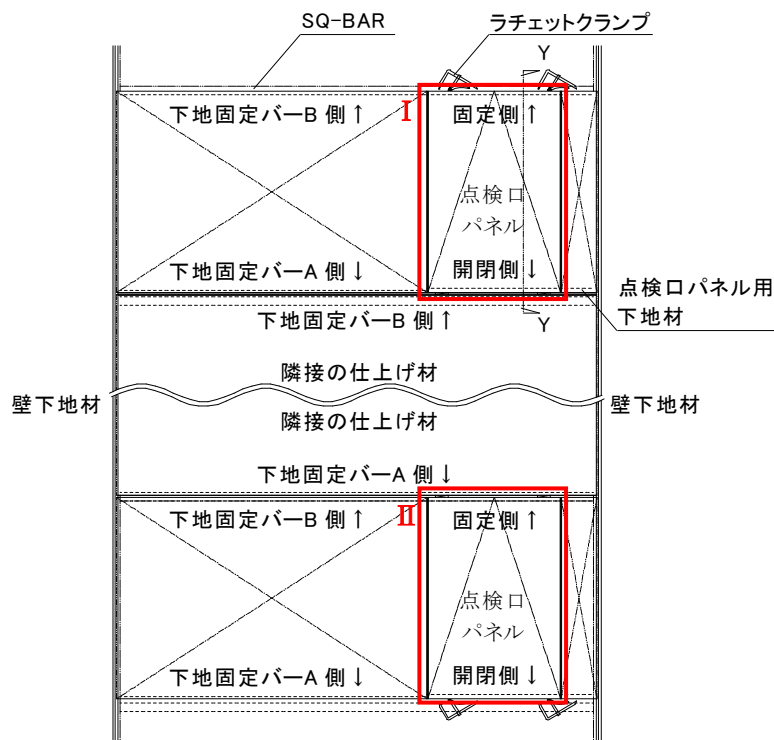


図 3-2-2 点検口パネルの取付け(平面図)

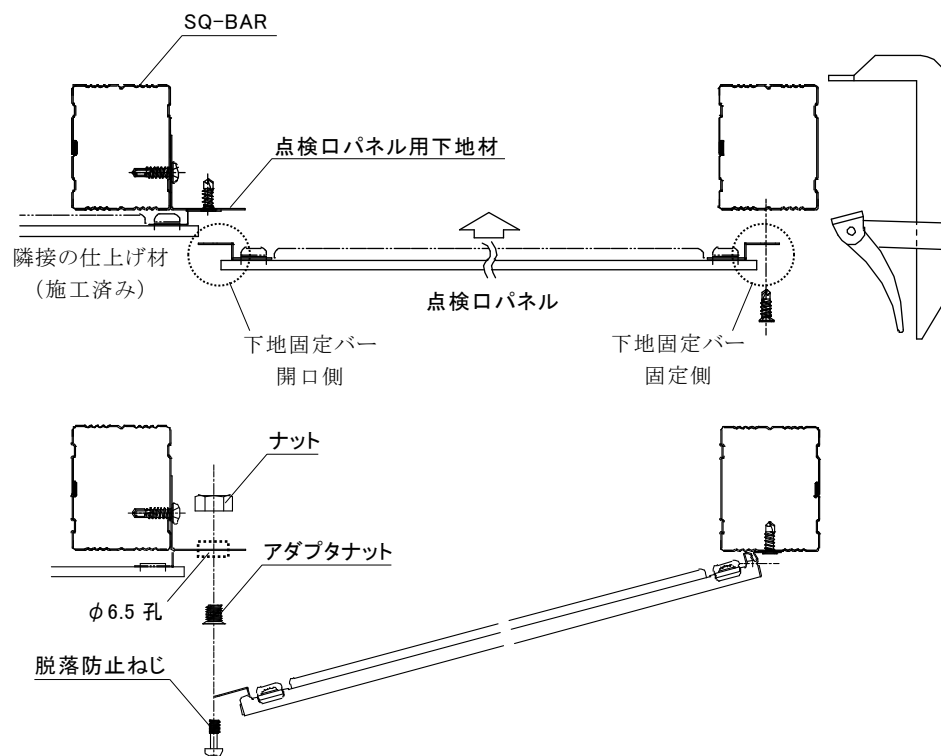


図 3-2-3 点検口パネルの取付け(Y-Y 断面図)

※壁際に点検口パネルを配置する場合

点検口パネルを列の一番端に配置すると、見切り材によって開閉ができなくなるため、壁際に幅 150mm 以上の標準パネルを設けること。(図 3-2-4 参照)

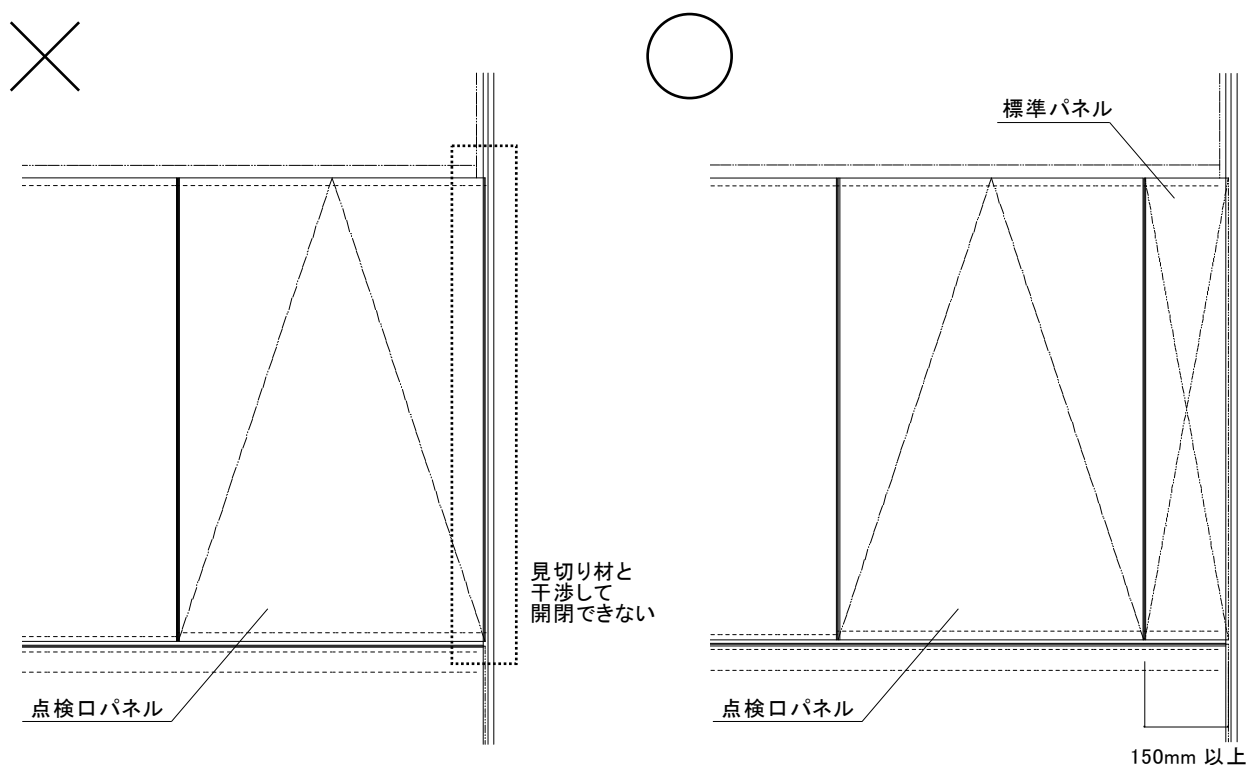


図 3-2-4 壁際の点検口パネルの納まり

※点検口パネル用下地材の端部(壁際)に下地固定バーの下孔がある場合

点検口パネル用下地材の短手方向の動きを拘束させないようにするため、仕上げ材用ビスで仕上げ材を留め付ける際はSQ-BAR 端部接続金具をかかわす必要がある。

壁面から 70mm 以内に下地固定バーの下孔がある場合、SQ-BAR 端部接続金具が干渉するため仕上げ材用ビスは下孔には打たず、壁面から 70mm 以上離れた下孔のない箇所に留め付ける。
(図 3-2-5、図 3-2-6 参照)

なお、仕上げ材用ビスを打たなかった下孔箇所は下地材の色が見えてしまうため、油性ペン等で着色する。

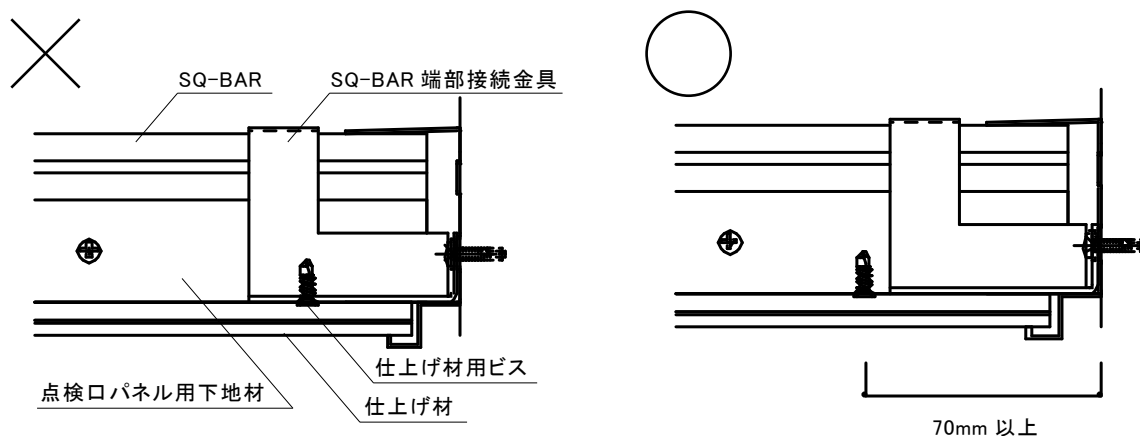


図 3-2-5 点検口パネル用下地材端部の仕上げ材固定位置

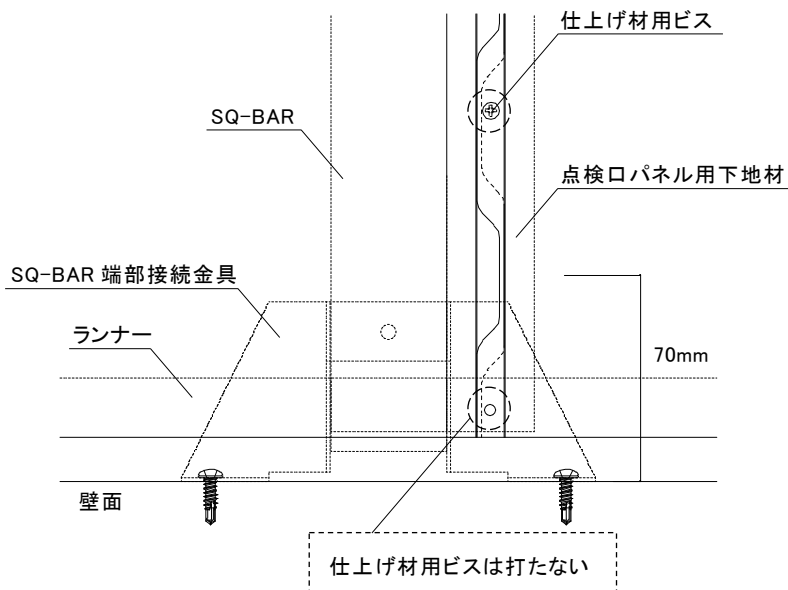


図 3-2-6 点検口パネル用下地材端部の納まり詳細(見上げ図)

3-3 見切り材の取付け

I. 廊下短手方向の見切り材

2-4で施工した天井端部のSQ-BARの下面に見切り材を固定する。固定のピッチは、端から50mm以内、中間部は606mm以下とする。仕上げ材の乗せ掛け寸法は5mm程度以上(a)とし、検討書で算定した天井変形量以上のクリアランス寸法(b)を確保する。(図3-3-1参照)

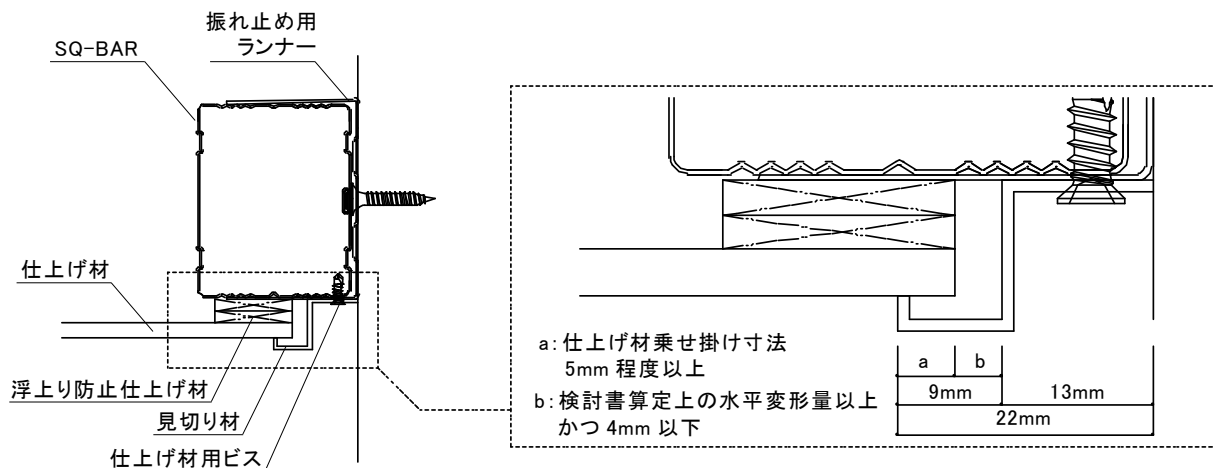


図 3-3-1 見切り材の納まり(廊下短手方向 断面図)

II. 廊下長手方向の見切り材

ランナーの下面に見切り材を仕上げ材用ビスで固定する。固定のピッチおよび仕上げ材の乗せ掛け寸法についてはI同様とする。(図3-3-2参照)

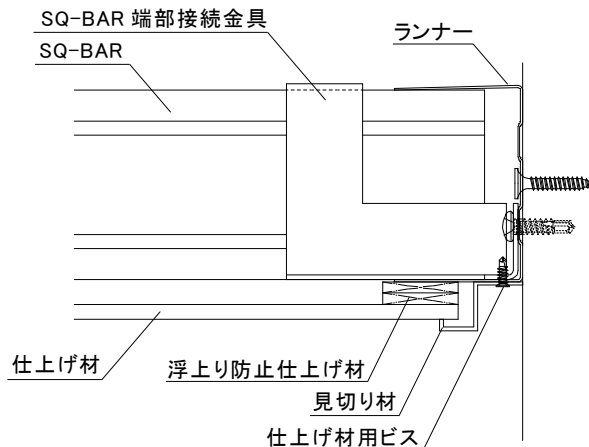


図 3-3-2 見切り材の納まり(廊下長手方向 断面図)

3-4 点検・検査

ボルトレス・ライトの施工完了後における点検、検査は、水平精度の検査および目違いなどの点検を行うと共に、チェックリスト(本書巻末に添付)により行う。

第4章 特殊部の納まり

4-1 曲がり角部の納まり例

曲がり角部等では、ランナー、SQ-BAR および仕上げ材の設置方向が変わるため、切替部にランナー受け材を設置する。

例)ランナー受け材:□-50×50×1.6

ランナー受け材両端に施工されているランナーに嵌め込み、接合部を KIRII 耐震ビス 1 本/箇所 の計 2 本で固定する。(図 4-1-1、図 4-1-2 参照)

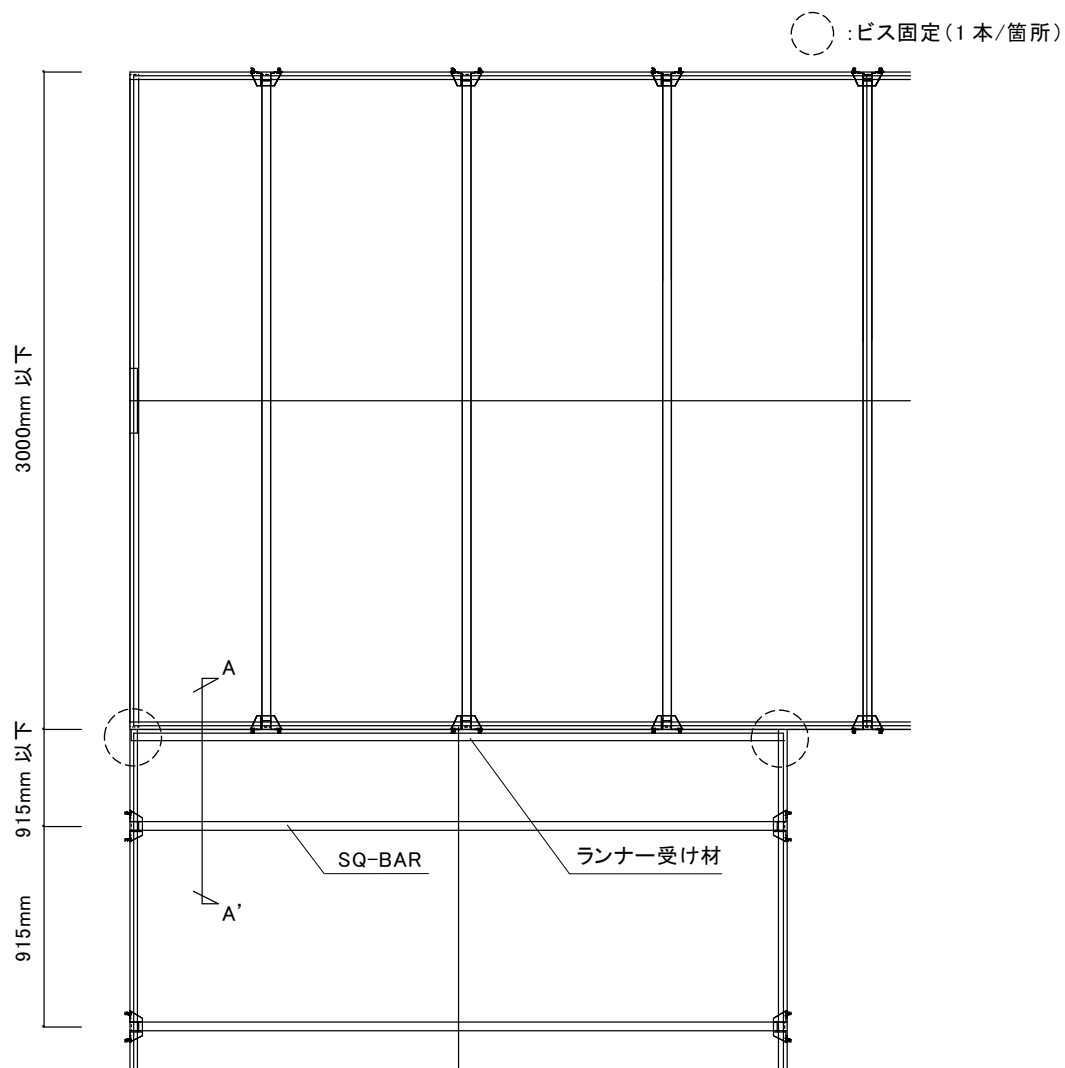


図 4-1-1 曲がり角部の納まり例

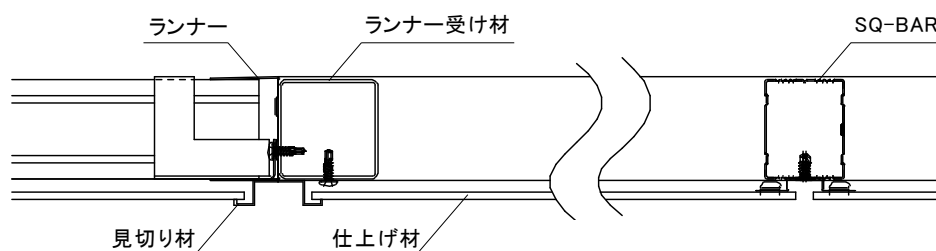


図 4-1-2 ランナー受け材の納まり例 (Y-Y 断面図)

付録 施工チェックリスト

点検日	西暦 年 月 日	点検時間	am/pm : ~ am/pm :
建物名称		点検箇所(室名等)	
施工者	☐	点検者	☐
工事管理者	☐	工事監理者	☐
天井形状	□水平天井	廊下幅 または空間の幅	幅＝ m

※点検結果（※現場独自の納まりに関しては別途ご確認ください）

点検部位	点検内容(該当する部分を全てチェック)	チェック (該当がない場合は「-」)
ランナー	ビス固定は@606mm以下	OK・NG・-
	ビスはスタッド貫通後に10mm以上確保できる長さ	OK・NG・-
SQ-BAR (一般部)	設置間隔は@915mm±1mm	OK・NG・-
	仕上げ材を留め付ける全てのSQ-BARに、SQ-BAR端部固定金具が取り付けられている □SQ-BAR1本あたり両端2箇所 □KIRII耐震ビス 2本/箇所	OK・NG・-
SQ-BAR (点検口パネル用下地材 取付部)	SQ-BARと点検口パネル用下地材のビス固定間隔は端から100mm程度および中間部@606mm以下(KIRII耐震ビス)	OK・NG・-
	点検口パネル用下地材と隣のSQ-BARとの設置間隔は@915mm±1mm	OK・NG・-
仕上げ材 (標準パネル)	仕上げ材面に意匠上不具合となり得る『汚れ、シワ、折れ』等がない	OK・NG・-
	SQ-BARと仕上げ材は全ての下孔位置でビス固定されている(仕上げ材用ビス)	OK・NG・-
	目地幅は9mm±2mm、仕上げ材1辺での最大値と最小値の差が1mm以下である	OK・NG・-
	隣接する仕上げ材の間隔差は1mm以下である	OK・NG・-
仕上げ材 (点検口パネル)	点検口パネルと壁面の間には幅150mm以上の標準パネルを配置し、問題なく開閉ができる(点検口パネルが列の一番端に配置されていない)	OK・NG・-
	点検口パネルと同列の標準パネルを固定するビスは、壁面から70mm以上離れた位置に留め付けられている(仕上げ材用ビスと点検口パネル用下地材が干渉していない)	OK・NG・-
見切り材	見切り材のビス固定間隔は端から50mm以内および中間部@606mm以下	OK・NG・-
	設定クリアランス寸法以上が設けられている かつ 仕上げ材の乗せ掛け寸法が5mm以上である	OK・NG・-
提出日		年 月 日

©2023 KIRII CONSTRUCTION MATERIALS CO.,LTD.

ボルトレス・ライト 標準施工要領書

2024年 1月26日 初 版 (ver.202401a)

2026年 6月12日 第2版 (ver.202606a)

株式会社桐井製作所

〒100-6605 東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー5階

TEL 03-4345-6005 FAX 03-6895-0220

※商品改良等の為、予告無く規格その他を変更することがありますのでご了承ください。

※本書の内容の一部または全部を、当社の許可なしに複製、複写、転載することを禁じます。

©2024 KIRII CONSTRUCTION MATERIALS CO.,LTD